

透析液中エンドトキシン測定 マニュアル

① ウォームアップ

- 1 EGリーダー SV-12本体にパソコンを接続し、電源を入れます。
- 2 パソコン画面上のEGリーダー SV-12ソフトアイコンをクリックします。
- 3 15分のウォームアップが自動的に始まります。
ウォームアップが終了した後に測定を行って下さい。
(温度表示部が37.0であることを確認して下さい)



② 測定準備

- 4 測定時のパラメーター、ウェルパターンと標準液の濃度を設定します。
または既存のファイルを開き、適宜パラメーター、ウェルパターンと標準液濃度を変更します。
- 5 EGリーダー SV-12のアルミブロックを遮光板で覆い、ベース補正を行います。*ベース補正は、試薬バイアルをセットせずに行ってください。
- 6 測定開始アイコンをクリックします。カプトガニアアイコンが回転して、測定待機状態になります。

③ 測定準備

- 7 必要数のエンドスペシ-ES-24Sの主反応試薬バイアルを開封し、乾熱滅菌アルミキャップを被せます。



- 8 標準品のバイアルに添付の蒸留水全量を添加し、アルミ箔を被せ試験管ミキサーで少なくとも1分間攪拌して標準液を調製します。

*試薬バイアル記載の標準品濃度はEU/mL表示になっていますので、濃度を入力の際は1000倍した数値を入力して下さい(EU/L)。



- 9 必要数の主反応試薬バイアルのすべてに緩衝液200 μ Lを添加しアルミキャップを被せ、試験管ミキサーで2秒程度攪拌し溶解します。

*緩衝液で溶解後は、速やかに10. 11.の操作を行ってください。



- 10 主反応試薬バイアルにSt1(ブランク液)200 μ Lを添加し、アルミキャップを被せ、試験管ミキサーで2秒程度攪拌します。



- 11 主反応試薬バイアルをEGリーダー SV-12の所定のウェルに挿入します。バイアルをセットしたウェルから自動的に37 $^{\circ}$ C、30分で測定が始まります。

- 12 St2(標準液)、検体についても10.11と同様の作業を繰り返します。

- 13 測定終了後は結果表示アイコンをクリックすると、測定結果が表示されます。



透析液採取・保存方法

検体採取

1) T字サンプルポートからの採取

- ① T字サンプルポートキャップ部を消毒用アルコール綿で拭きます。
- ② 注射針をつけたディスポーザブルシリンジをT字サンプルポートに刺し、シリンジ全体を透析液で満たすように吸引して一度破棄します。
- ③ 再度シリンジをT字サンプルポートに刺し、数回ポンピングします。
- ④ 採取した透析液を乾熱滅菌試験管に1/4量ほど移します。

2) カプラーからの採取

- ① カプラージョイントからしばらく透析液を流します。
- ② 注射針をつけたディスポーザブルシリンジを透析液で満たすように吸引し、一度破棄します。
- ③ 再度シリンジ全体を透析液で満たすように採取します。
- ④ 採取した透析液を乾熱滅菌試験管に1/4量ほど移します。



T字サンプリングポートからの採取



カプラーからの採取

HDチューブを用いた検体保存

- ① 上記1) または2) の手順で検体をシリンジに採取し、4mLの目盛りに合わせてます。
- ② HDチューブのカラーキャップを矢印の方向に引き上げ、アルミ部分を切らないように(カラーキャップが完全に外れ落ちないように)カラーキャップを開け、ゴム栓部分を消毒用アルコール綿で拭きます。
- ③ 透析液を4mL採取したシリンジ(注射針付)をHDチューブのゴム栓部に刺します。
- ④ HDチューブ内は陰圧となっているため、全量(4mL)が自動注入されます。
- ⑤ ピストンが最後まで下がりましたら、針を引き抜きます。
- ⑥ 透析液注入後、カラーキャップを元通り被せ、直ちに4回振り、安定化剤を透析液に均質に混ぜます。
- ⑦ カラーキャップの周りにパラフィルムを巻いて、2~8℃で保存します。



HDチューブを用いた検体保存

よくあるご質問

Q1) 専用ソフトを開いてもEGリーダー SV-12(温度)が認識されません。

- ・パソコンとEGリーダー SV-12本体が接続ケーブルで接続されていることを確認して下さい。
- ・ソフトを2重で開いた場合、最初のソフトのみ認識されます。パソコン画面上にひらくのは1ソフトとして下さい。

Q2) すべてのバイアルをEGリーダー SV-12に挿入してから測定を開始(測定アイコンクリック)してもよいですか。

主反応試薬(LAL試薬)に緩衝液、検体を添加した時点で、リムルス反応が開始していますので、検体を入れたバイアルから順次1バイアルずつ測定を開始して下さい。

Q3) LAL試薬を緩衝液ではなく、蒸留水や検体で溶解できますか。

緩衝液を添加することで、反応の最適条件となります。したがって、緩衝液を使用せずに蒸留水等でLAL試薬を溶解した場合、通常の性能が保たれません。

製品添付文書をよく読んでから使用して下さい。



発売元

生化学工業株式会社

機能化学品営業部

〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目6-1

Telephone : 03-5220-8953

Facsimile : 03-5220-8956

E-mail : lal@seikagaku.co.jp

URL : <http://www.seikagaku.co.jp/>